編集後記

世界中でバックラッシュの流れが止まるところを知らない。自国ファーストを掲げるトランプ政権は、「国際協調」は建前としてさえ顧みず、中東や中南米ではむき出しの＜帝国＞の振る舞いが目立っている。一方、EU では 5 月 23 日から 5 年に 1 度のヨーロッパ議会選挙が始まり、主権回復や移民・難民の排撃を掲げるフランス、イタリア、オランダなどの極右政党がヨーロッパ議会の 3 分の 1 を占める勢いであるという。国民国家の論理を超える国際社会の達成や理念が深く広く揺らいでいる。

今号ではそうした反動や逆流の渦巻く世界での市民社会の試行錯誤が検証される。山中論文は「アラブの春の唯一の成功例」ともされるチュニジアでの産業面の「腐敗レジーム」の持続を背景とする若年層の失業問題が論じられている。研究ノート（鰐部）は、貧困削減や女性のエンパワーメントとして期待されたマイクロ・ファイナンスの商業化過程を、一歩踏み込んで検証し問題点を明らかにしている。研究会報告（タバラ）は、マイクロ・ファイナンスやソーシャル・ビジネスの限界を超えて近年、世界的な注目を集めているベーシックインカムについてのインドの実践報告である。もう一つの研究会報告（A・スニータ他）はインドの大学を変える運動としてのとして「セクハラ加害者リスト」公開の動きが扱われている。

最後の報告（後藤）は、去る 3 月 10 日に開催された「ベネズエラ緊急シンポジウム」の報告である。今後も、激変する世界の動きや争点に切り結ぶ議論や研究を機動的に組織し発信していければと考えている。

（2019/4/25　文　京洙）

アジア・アフリカ研究

2019 年 第 59 巻 第 2 号（通巻 432 号）

2019 年 4 月 25 日発行　機関購読料：年間 15,000 円

編集・発行人　文　京　洙

発行所　特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2−17−10
Tel&Fax: 03（3946）1479
E-mail:aaken@bz01.plala.or.jp
URL:http://www.aaij.or.jp/

印刷所　三和印刷㈱
長野県長野市川中島町 1822 − 1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO 法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表わすものではありません。
The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan（AAIJ）. Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.